

## IV プロジェクトの内容と進行経過

第3章で述べた経緯から、所沢センターでは、目標設定を中心として教育の計画と実施を有機的に結びつけながら全体としてまとまりのある形に改良する必要性が認識され、そのような改革を「カリキュラム開発」プロジェクトとして進めることとなった。本章では、プロジェクトの具体的内容についてまとめ、それが実際どのような経過で進行したかについて報告する。

### IV-1 カリキュラム開発全体の内容と進行経過

#### IV-1-1 カリキュラム開発の内容とその体系

本プロジェクトでは、カリキュラム開発のプロセスを大きく三つの領域に分類し、それぞれの領域における基本的な役割を次のように設定した。

- 〈状況分析〉……………データの収集・整理・調査
  - その基礎となる指導者間ネットワークの形成
  - データの総合分析及び第一次分析
- 〈目標設定〉……………理念的目標の構造化
- 〈プログラム開発〉…プログラム全体の調整
  - プログラムの設計・実施・評価

まず〈状況分析〉においては、所沢センター内外の帰国者問題・教育に関わるすべての状況がその分析の対象となる。具体的には、所沢センター内の状況分析としては、学習者に関するすべてのデータ、教育機関の設備や施設などの物理的条件、入手可能な学習リソースや教師の資質および組織体制の問題の他に、学校文化や潜在カリキュラムも重要な対象となる。センター外との関わりの状況については、有益な教育理論など各種の専門的知見はもちろん、定住後の学習者の進路や生活の問題および帰国者に対する援護政策の問題、また教育機関を取りまく近隣やコミュニティ、社会の実態と教育機関との関係についても分析が必要となる。これらのデータ収集のためには、所沢センターのおかれている地域社会、各地に定着している修了生等帰国者、そして特にその定着地における支援機関や教育機関および支援者や指導者とのネットワーク形成が重要となる。〈状況分析〉においては、この「ネットワーク形成」を含め、「データの収集・整理・調査」およびそこから得られた個別的領域についての分析（「第1次分析」）をプロジェクトの内容とした。なお、学習者およびその教育主体を取りまく「社会」というマクロの視点から教育機関の役割を自己規定し教育理念を検討していく際に必要となる「総合分析」については、プロジェクトを超えた学校運営上の高次の判断とした。

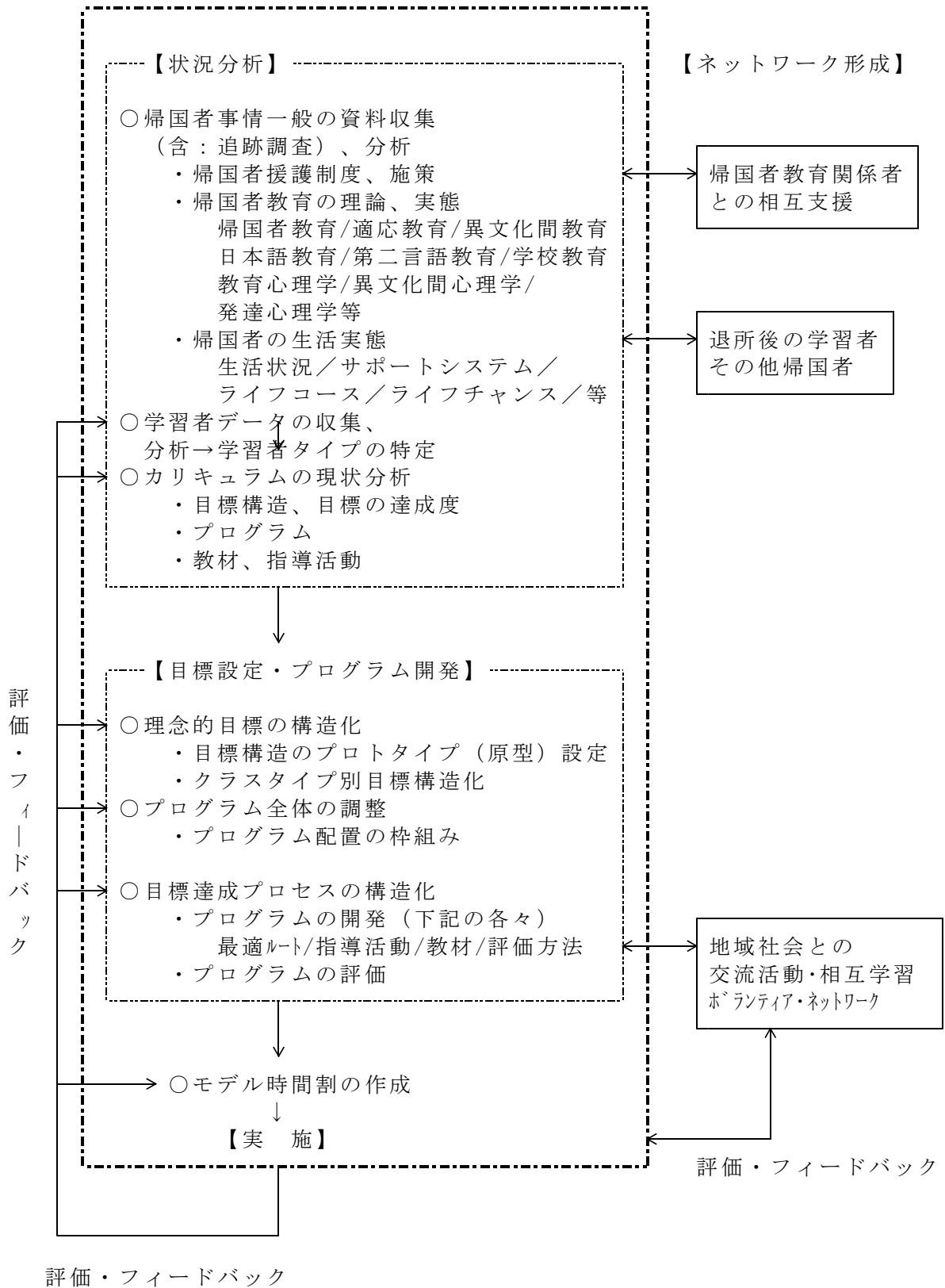
〈目標設定〉は、長期的な教育目標(aim)から上記の状況分析等を通じて所沢センターの学校目標(goal)を導きだし、さらにそれを直接的な個別目標(objectives)にまで分析してゆく作業を行う。所沢センターにおいては、この長期目標に相当するのは「異文化適応」であり、学校目標(「大目標」と呼ばれている)は「日本での生活に対する自信と意欲、それを裏付ける基礎技能、基礎知識」として設定され、すでに定着していた。この大目標をさらにいくつかの「中目標」に分析し、それぞれの中目標をさらにいくつかの「小目標」群に、小目標をまたいくつかの「達成目標」へと分析してゆく。このように分析を経るにしたがって目標が具体化され、行動目標化されることになるが、この作業を「理念的目標の構造化」と呼ぶことにする。「理念的目標の構造化」の終着点である「達成目標」は、あるプログラムが実施された結果として達成されるよう目指される目標レベルであり、そのようなものとしてできるだけ操作的に定義される必要がある。

〈プログラム開発〉では、「プログラム全体の調整」と「プログラムの設計・実施・評価」が行われる。一つのコース全体が一つのプログラムであるとも言えるが、ここで言う「プログラム全体の調整」とは、コースを構成するいくつかのサブ・プログラムをコース全体の中にどのように配置するかということである。すなわち、4か月のコース全体の中の各プログラムの時期的な配置や規模(指導時間数)を、全体的なバランスからみて調整する。これは、「プログラムの設計・実施・評価」との間で互いにフィードフォワード、フィードバックしつつ進められることになる。

「プログラムの設計・実施・評価」では、「目標達成プロセスの構造化」(「理念的目標の構造化」によって析出された達成目標をさらに具体的な行動目標群に分析し、達成目標に到達するまでの「最適ルート」として表すこと)を通じて設計された基本的な流れにしたがってプログラムを設計し、実施、評価を通して改善してゆく。ここには、教授内容の確定と活動や教材の選択・開発も含まれる。

ここにまとめた3つの領域における基本的役割を、相互の関連の観点から配置しカリキュラム開発全体の体系として示そうとしたものが、以下に示す[図IV-1]である。

[図IV-1] カリキュラム開発の体系



#### IV-1-2 プロジェクトの構成及び進行の方法

本プロジェクトでは、IV-1-1にまとめた3つの領域における基本的役割が、そのまま各プロジェクトの主要な内容となるわけであるが、一見してわかるようにその内容は膨大である。しかも、所沢センターには大別して、「大人コース」「青年コース」「子供コース」「婦人コース」の4種、実際上はそれぞれに何種類ものバリエーションが必要なほどに多様な学習者から成っており、上述の3領域はコース・バリエーションの数だけ同時に存在していることになる。実践を通じまたは実践と並行して進められるという本プロジェクトの性格上、カリキュラム開発のプロセスに沿って領域を一つずつプロジェクト化していくのでは、要する時間も膨大なものになることが予測された。この問題を解決し、研究課題であるカリキュラム開発の体系確立を早期に実現させるために、基本的なプロジェクトの進行は、下に示す流れで拡大していく方法をとることとした。

〈モデル・プロジェクト〉 → 〈全体プロジェクト〉

まず〈モデル・プロジェクト〉においては以下のような形で計画を進めた。

- ・ 3つの領域それぞれにおいてプロジェクトを同時進行させる
- ・ 同時進行によって生じるプロセスの逆転及びそれによる作業の重複等は、これをやむをえないものとしながらも、進行状況を相互に確認しながら調整をはかっていく
- ・ 各プロジェクトで扱う学習対象者やコース、開発の内容については、極力これを必要最低限度にしぼるが、最も緊急に開発が必要とされている内容を必要としているコースで行うことにする

次の〈全体プロジェクト〉については、

- ・ 〈モデル・プロジェクト〉の目的や進行手順、各作業段階における観点やプロダクトの構造等についての共通理解を課全体ではかる
- ・ この〈モデル・プロジェクト〉をもとに、同様のプロジェクトを課全体の課題としていろいろなコースでプロダクトを拡大再生産していく
- ・ プロジェクトを進めるにあたって生じた問題点等は、もともなった〈モデル・プロジェクト〉にフィードバックする

という形で計画を進めた。この〈全体プロジェクト〉は、〈モデル・プロジェクト〉がカバーすることができなかった領域を埋めていくという補完的役割とともに、〈モデル・プロジェクト〉の妥当性と実用性を、それぞれのクラス運営という実践を通して検証し、その結果をまたモデルにフィードバックするという役割を担うものである。

従って、プロジェクトの構成はすべて課全体のプロジェクト計画の中で決定されることになったが、〈全体プロジェクト〉においては、その具体的テーマの選択は極力、各常勤講師が抱えるクラス運営上の問題意識に沿うよう配慮した。これは、課全体が主体的にプ

プロジェクトを進めるために必要なことであり、現在進行形で機能している教育現場においてプロジェクトを具体的教育改善に直結させるための方策でもある。

これらの各プロジェクトは、原則として所沢の研修期間である1期（4か月）を単位として構成され、その都度プロジェクトチームの編成がなされた。4か月の流れはおおよ次のようになっている。

- ・プロジェクトの構成および各プロジェクトチームのメンバーを決定する
- ・課内研修会…これはその期におけるプロジェクト全体計画について課全体が内容を把握、各自が参加するプロジェクトのカリキュラム開発における位置づけを確認するためのもの  
(〈全体プロジェクト〉の場合はここにテーマの決定が加わる)
- ・プロジェクトチームごとに期の達成目標を設定し進行計画の概要を作成する  
↓  
この間チームごとに作業を進行、数回のプロジェクト会議を持つ  
↓
- ・プロジェクトチームごとにプロダクトをまとめる
- ・課内研修会…ここではチームごとにプロジェクトの進行経過を報告しプロダクトを発表する
- ・個々のプロジェクトの目標達成度を評価検討し、プロジェクトの続行・修正・次の段階への移行等を決定する

#### IV-1-3 プロジェクト全体の進行経過

プロジェクトは、このようにして期ごとに構成され進行した。縦に期を単位とする時間軸をとり、横軸にはカリキュラム開発の体系における3つの領域をとり、それぞれの期にそれぞれの領域で進められた具体的作業を簡単に記録したものが下の〔表1〕である。表は、領域ごとに同時進行する作業の経過がわかるように表されているが、実際のプロジェクトはすべてが領域別に構成されたわけではない。領域別のものもあるが、コースでまとめられたもの、関連して継続する作業のつながりでまとめられたもの等、実際の作業進行上のまとまりで構成されチーム編成されたものが多かった。このまとまりを表すものとしては、主なものを大きく8つ取り出して便宜上のプロジェクトの名付けを行い、( )の略号でそれを示すこととした。

- ・「情報・資料収集管理」 ----- (情)
- ・「指導者間相互支援ネットワーク作り」 ----- (NW)
- ・「修了生追跡調査」 ----- (調)
- ・「〈大人・青年コース〉目標設定」 ----- (目)

- ・ 「〈子供コース〉目標設定」 ----- (子)
- ・ 「〈帰国婦人コース〉カリキュラム開発」 ----- (婦)
- ・ 「大人Fタイプ・青年Iタイプ プログラム開発」 -- (プ)
- ・ 「ボランティア参加型学習活動のプログラム開発」 -- (ボ)

[表Ⅳ－1] プロジェクト全体の進行経過